

# 運動疫学 ニュースレター



日本運動疫学会  
Japanese Association of Exercise Epidemiology

平成 30 年 6 月 8 日発行 No.10

## 第 19 回運動疫学セミナーのお知らせ

東京大学 笹井 浩行

第 19 回運動疫学セミナーを下記の日程で開催いたします。運動疫学に精通した講師陣の講義を受けるとともに、研究ネットワークを拡げる絶好のチャンスです。セミナーに一度も参加したことがない方、あるいは再度理解を深めたい方の参加をお待ちしております。参加者のお立場、職種、資格などは一切問いません。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日 程：2018 年 8 月 31 日（金）13:00～  
9 月 2 日（日）16:00（2 泊 3 日）

会 場：Active Resorts 宮城蔵王  
(<http://www.daiwaresort.jp/zaou/>)  
〒 989-0916 宮城県刈田郡

蔵王町遠刈田温泉字鬼石原 1-1  
(仙台駅より高速バスで 1 時間 14 分)

時間割・講師：調整中（昨年に類似した  
ものです：近日公開）

参加申込：日本運動疫学会のウェブサイ  
トから（6 月上旬に公開予定）

受講料：一般（有職者）40,000 円  
学生 35,000 円

定 員：全コース合わせて約 30 名（定  
員になり次第、締め切ります。）

※セミナー受講者は日本運動疫学会の  
会員とします。

※非会員の方は必ず入会手続き（当該

年度会費の納入＋入会申込書の提出）  
をお願いします。学生会員入会ご希望の方は学生証の提示とご紹介者（正  
会員）の明記が必要です（入会案内  
→ <http://jaee.umin.jp/join.html>  
入会申込・お問合せ  
→ [jaee.info@gmail.com](mailto:jaee.info@gmail.com)）。

※セミナー受講料について：学生会員  
であっても専任有職者には学生料金は  
適応されません。

※受講料には宿泊費と食費（1 日目夕食  
～ 3 日目昼食）が含まれます。

※宿泊は相部屋となります。個人での  
宿泊予約の必要はありません。

1. コース選択：以下の 3 コースから  
1 つお選びいただきます。

○ベーシックコース：疫学的研究デ  
ザインを意識して研究計画をつく  
れるようになる。

○アドバンスコース：疫学的研究の  
運営・解析・論文化する力を身に  
つける。

○フリーコース：疫学的研究を実施  
する上で身についた企画・運営・解  
析・論文化の力を復習する。講義  
は自由に選択可能。グループワー  
クはアドバンスコースに参加して

いただきます。

2. 運動疫学研究に関する合同および  
個別相談プログラム

(1) 合同相談プログラム（運動疫学研究  
実習）

アドバンスコース 2 日目の「運動  
疫学研究実習」で、これから実施する、  
あるいは現在進行中の研究の現状に  
ついて発表した後、講師陣全員に対  
して研究に関する相談や質問が可能  
です。このプログラムでの発表希望  
者は、研究の指導を担当されている  
方（指導教授や研究班長）がいる場合、  
本セミナーにおいてこのような企画  
があることを伝え、必ず承諾を  
得てください。

(2) 個別相談プログラム

フリーコース参加者の中で、これ  
から実施する、あるいは現在進行中  
の研究に関して講師陣と個別に話し  
合う時間帯を設けます。このプログ  
ラムへの希望者で、研究の指導を担  
当されている方（指導教授や研究班  
長）がいる場合、プログラム参加へ  
の承諾を必ず得てください。



昨年度の運動疫学セミナー（於：帝京大学箱根セミナーハウス）での集合写真

### CONTENTS

1. 第 19 回運動疫学セミナーのお知らせ	1
2. 第 21 回日本運動疫学会学術総会 のご案内	2
3. 第 1 回 運動と健康：分野横断型勉強 会のご案内	2
4. 【関連学会参加報告】第 28 回日本疫学会	3
5. 私と運動疫学	4
6. 【最近の注目論文】	4

## 第 21 回日本運動疫学会学術総会のご案内

第 21 回学術総会 大会長／早稲田大学 岡 浩一郎



6月23日(土)  
～24日(日)に、  
早稲田大学大隈  
講堂を会場とし  
て第21回日本  
運動疫学会学術

総会を開催させていただき運びになりました。大会の準備に関しまして、特に副大会長の北畠義典先生（埼玉県立大学）、事務局長の石井香織先生（早稲田大学）には大変ご尽力頂いております。この場を借りて感謝申し上げます。第21回目を迎える本学術総会のテーマは、"Stand Up, Sit Less, Move More!"とし、できる限り座りがちな生活を見直し、少しでも身体活動を増やすための戦略や課題について、参加者の皆様と議論を深めたいと考えております。今回は、特別講演としてカルガリー大学から McCormack 先生を招待し、また東北大学の中谷先生、大阪大学の平井先生、早稲田大学の柴田先生をお招きし、3つの教育講演を企画いたしました。さらに、ベテラン・中堅研究者による「運動疫学研究の今とこれから」、若手研究者を主体とした「運動疫学を担う熱き若手の思いーエキスパートの期待を添えてー」と題する興味深いシンポジウムも企画されていますので、是非ともご参加いただければと思います。学術総会の概要は以下の通りです。

### <第21回学術総会概要>

日時：2018年6月23日(土)・24日(日)  
会場：早稲田大学早稲田キャンパス  
大隈小講堂他（東京都新宿区  
戸塚町1丁目104）

プログラム：

#### 【特別講演】

座長：柴田愛（筑波大学体育系）  
演者：Gavin McCormack（Department  
of Community Health Sciences,  
University of Calgary）

タイトル：(Un)Healthy Neighbourhoods:  
Built Form Shaping Physical  
Activity, Weight, and Health

#### 【教育講演1】

座長：小熊祐子（慶應義塾大学大学  
院健康マネジメント研究科）  
演者：中谷友樹（東北大学大学院環  
境科学研究科）

タイトル：運動の地理疫学と GIS

#### 【教育講演2】

座長：甲斐裕子（公益財団法人明治安  
田厚生事業団体力医学研究所）  
演者：平井啓（大阪大学人間科学研  
究科）

タイトル：運動疫学研究に活かす行動  
経済学

#### 【教育講演3】

座長：村上晴香（国立研究開発法人  
医薬基盤・健康・栄養研究所  
健康増進研究部）

演者：柴田重信（早稲田大学理工学

術院）

タイトル：時間栄養・時間運動の視点  
による健康科学

#### 【シンポジウム1】

テーマ：運動疫学研究の今とこれから  
座長：井上茂（東京医科大学）、澤田  
亨（早稲田大学）

演者：門間陽樹（東北大学）、笹井浩  
行（東京大学）、中田由夫（筑  
波大学）、齋藤義信（慶應義塾  
大学）、澤田亨（早稲田大学）

#### 【シンポジウム2】

テーマ：運動疫学を担う熱き若手の思  
いーエキスパートの期待を添  
えてー

座長：鎌田真光（東京大学）、門間陽  
樹（東北大学）

演者：小熊祐子（慶應義塾大学）、田  
島敬之（慶應義塾大学大学院）、  
天笠志保（東京医科大学大学  
院）、鎌田真光（東京大学）

#### 【一般演題（口演、ポスター）】

座長：川上諒子（早稲田大学）

#### 【懇親会】

日時：2018年6月23日(土)

会場：早稲田大学大隈ガーデンハウス

#### 【健康運動指導士および健康運動実践 指導者の単位認定について】

健康運動指導士および健康運動実践  
指導者の登録更新に必要な履修単位と  
して講義3単位が認められます。[認  
定番号 186302]

## 第1回 運動と健康：分野横断型勉強会のご案内

東北大学 門間 陽樹



この度、日本  
体力医学会大会  
の前日に開催し  
ておりました  
「運動疫学の集  
い」を「身体活

動と健康：分野横断型勉強会」と名称  
を改め開催することになりました。日  
本体力医学会大会の前日に開始する  
というメリットを活かし、日本運動疫学  
会の関係者以外の方々にも開かれた  
集会であることをより明確に発信する

ねらいがあります。体力医学会が取り  
扱う運動や健康に関する様々なテーマ  
を幅広く扱い、異分野とのコラボレー  
ションを通しながら、疫学マインドや  
疫学手法の普及・啓発を進めていき  
たいと考えています。

今回のテーマは「統計解析」です。研究を行う上で欠かせない統計解析ですが、悩んでいる方も多いのではないのでしょうか？そこで、今回の企画では、統計解析に関する基本のお話から始まり、運動疫学研究の第一線で活躍されている先生方を迎え、統計解析に関する相談会を実施する予定です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

1. テーマ :

統計解析と研究デザインの狭間 — 統計解析に関する素朴な疑問に答えます —

2. 日時 :

2018年9月6日(木) 15:00 ~ 17:30 (予定)

3. 場所 :

アオッサもしくはハピリン (予定)

4. 交通 :

JR 福井駅から徒歩 1 分

5. 参加費 :

1,000 円 (予定 : 当日、受付にて徴収)

6. プログラム :

14:30 ~ 15:00 受付

15:00 ~ 15:45 講演

座長 : 山北満哉 (北里大学)

研究における統計解析の役割

演者 : 門間陽樹 (東北大学)

15:45 ~ 16:00 休憩

16:00 ~ 17:30 統計解析相談会

コーディネーター :

門間陽樹 (東北大学)

参加予定の講師

天笠志保 (東京医科大学)

鎌田真光 (東京大学)

辻大士 (千葉大学)

松下宗洋 (東海大学)

門間陽樹 (東北大学)

山北満哉 (北里大学)

※このほかにも解析を得意とする先生方に依頼する予定です。

18:00 - 20:00 懇親会

なお、未定の部分に関しては確定次第、学会ホームページ (<http://jaee.umin.jp/index.html>) 上でご案内いたします。

## 【関連学会参加報告】第 28 回日本疫学会

北里大学 山北 満哉

2018年2月1日～3日に福島県福島市で開催された第28回日本疫学会学術総会に参加いたしました。「災害と疫学」をテーマとした今大会は、学会長講演をはじめ、多くのセッションにおいて震災に関する演題がありました。

### 疫学者の役割

学会長講演では、東日本大震災を経験されて「災害の疫学」に携わることになった経緯を拝聴し、疫学者としての使命感と覚悟、熱い情熱を持つこと、そしてその想いをもって実施した疫学

研究は世の中に貢献できることを学びました。果たして自分は疫学者と言えるのだろうか、どうすれば世の中に貢献できるのだろうか、など多くの不安を抱きましたが、その分、期待とやりがいを感じ、決意を新たにすることができました。

### 知識の update

また、一般演題に対して、「なぜ多重代入法を用いなかったのですか？」という質問が出るなど、私にはまだ馴染みのない多重代入法やマルチレベル分析などが当たり前である印象を

持ちました。「今はまだ使えなくても。。。」と放置していた自分を反省し、統計手法に限らず、常に情報を更新し続けることが必要だと痛感しました。

一般の方向け疫学紹介スライドショーコンテスト (S

### C) 授賞式

2日目には、一般の方向け疫学紹介 SC の授賞式に参加しました。



運動疫学会 SCWG は 3 年連続の入賞で、今回は「疫学」は世の中でどのように活用されているのか？～たばこや身体活動の政策に活用された疫学研究を例に～というテーマで最優秀賞を頂きました。作品は日本疫学会の HP で公開されておりますので、過去のものも含め、是非ご活用いただければ幸いです。

### 残念なこと

疫学に関する多様な情報が得られる学会に運動疫学会のメンバーが少ないと感じたことは残念でした。知識、人間関係を含め、得られるものしかありませんので、毎回参加したいと思っております。次回、第 29 回の学術総会は東京・築地で開催されます。運動疫学会から多くの方が参加されることを期待しております。



## 私と運動疫学

東海大学 萩 裕美子

運動疫学研究会を紹介されたのは、荒尾先生が鹿屋体育大学の客員教授として鹿屋にお見えになったときの飲み会の席でした。私はそのころ学位をとるために東京と鹿児島を行ったり来たりしておりました。私の研究のキーワードは身体活動、健康、効果測定でしたので、まさにこの研究会がカバーする領域で、このような研究会があることを知りうれしくなりました。早速、第4回の運動疫学セミナーに参加させていただきました。ここでは様々な衝撃が走りましたが、最も印象に残っているのは田中宏暁先生（先生の御冥福をお祈り申し上げます。合掌）との出会いです。「対象群のない、あるいは無作為抽出していない研究は価値がない

か」ということで議論したことです。私は「そんなことはない。」と答えました。その時に田中先生がニヤッと笑われたことを今でも覚えています。研究者としての先輩から多くの示唆をいただきました。大学院教育の中でこのような授業はおそらくないのではなか。そうであれば研究者を志す者にはこのセミナーは是非、参加すべきと思いました。その後、山本直史先生や、渡邊夏海先生がお世話になりました。セミナーには5回ほど参加しておりますが、いまだに身につけていないので参加したいところなのですが、東海大学に移り仕事の内容も変わる中で、セミナーが教授会とぶつかって参加ができなくなってしまいました。しかし、

その後もニュースレターの編集を通じて金森先生や鎌田先生と一緒に仕事をさせていただく機会を得ました。若い優秀な先生方がいらっしゃることを知り大変心強く思っております。現在、スポーツ庁関連の仕事をさせていただいておりますが、学会がこれからの国の施策に一石を投じられる役割を果たしていくことが期待されます。本学会は質の高さを担保しておりますので、有用なプロジェクト研究を実施し、学会としての社会貢献もしていけたら素晴らしいと思っています。



## 【最近の注目論文】

**Physical Activity and Sarcopenia in the Geriatric Population: A Systematic Review.** Lee SY, Tung HH, Liu CY, Chen LK. JAMDA 19(5):378-383, 2018

東京都健康長寿医療センター研究所 江尻 愛美

サルコペニアはギリシャ語の「sarx（筋肉）」と「penia（喪失）」を語源とし、加齢に伴って生じる骨格筋量や骨格筋力の低下を指す。サルコペニアの主な原因の一つとして、加齢に伴う身体不活動や運動不足が挙げられるが、高齢者におけるサルコペニアと身体活動の関連を検討した研究は少ない。そこでこの研究では、これらの関連についてのシステマティックレビューを行っている。

European Working Group on Sarcopenia in Older People (EWGSOP) がサルコペニアの定義を発表した2010年以降の論文を検索した結果、149編が抽出され、採択基準を満たしたのは10編（7編がRCT、3編が横断研究又は縦断研究）だった。RCTにおける介入は、有酸素運動・筋力トレーニング・バランストレーニング等を含

む包括的な運動介入が5編、自宅での運動介入が1編、教育プログラムを含むグループ運動介入が1編だった。このうち、サルコペニアの高齢者を対象とした3編のRCTでは、握力や歩行速度の有意な改善が、運動介入後少なくとも6ヶ月間継続したと報告されている。地域在住高齢者を対象としたその他のRCTにおいても、骨格筋量の増加などの効果が得られている。

これらのことから、高齢者に対する運動介入は、サルコペニアに関連した指標である骨格筋量・骨格筋力や身体機能を向上させ、身体活動がサルコペニアの予防・改善に有効であることが示された。ただし、骨格筋量の測定に二重エネルギーX線吸収測定法（DXA法）を使用しているのが1編だけであるなど、サルコペニアの統一した診断基準を用いていないことが課題として

挙げられており、更なる研究が求められる。

現在我が国では、地域に住む高齢者が主体となって集い、体操を行う「通いの場」の展開が推進されている。特定の指導者がいない点が従来の運動教室と異なるため、こうした住民主体の活動がサルコペニアの予防・改善に及ぼす効果についても、今後検討が必要があると考えられる。



発行：日本運動疫学会  
編集：日本運動疫学会 広報委員会  
日本運動疫学会事務局  
〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1  
東京医科大学公衆衛生学分野  
E-mail: [jaee.info@gmail.com](mailto:jaee.info@gmail.com)